その意義は大きく，基本的と言われながらとかく見過され勝ちな，分類学の仕事に光を当ててくれた同氏の業績に対して，あらためて拍手を送りたい．

岩槻氏は東大植物園就任以来，同園の経営改善に力を注いだばかりでなく．絶滅危惧植物のハハジマノボタンやヒスイカズラの種保全研究をリードして，植物園が遺伝子保存事業に積極的に関与する見本を示した．環境庁の野生生物調査事業にも，座長として調整・とりまとめに奔走している．その成果の一つである「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1989) は，日本植物の危機的現状をはじめて知らしめたものとして，世にショックを与えた．これに続いて公表された著書「日本絶滅危惧植物」(1990)，「植物からの警告」(1994) などは，この衝撃をあらためて広く定着させ，従来の「保護」という立場から踏み出して，自然界における種の多様性の役割を，分類学の立場から一般に理解してもらうことを意図している，

植物分類学の人は，世間的に目立とうとしないのを美学とする傾向がある．京都大学時代の岩槻氏を思うと，近年の活躍ぶりは思いのほかであるが．6月20日のお祝いの会で同氏が語ったところでは，植物園就任に当たって，種の保全についての園の役割をPRするために，積極的に動くことを決意したとのことである．今回の受賞はその成果であるばかりでなく，分類学の役割を「種の多様性」という，これまで無かった観点から世に定着させた功績は，記憶されるべきである．

（金井弘夫）

新　刊

□長井真隆：**とやま植物誌** 247 pp. 1994. ¥1,800.

富山県は海岸近くの照葉樹林から立山や白馬岳の高山植物群落まで，比較的狭い地域に様々な群落が見られる特徴があり，また深い黒部渓谷の特殊な環境は，日本海側ではここにしかないツガ林や，内陸型のカラマツ林を成立させている．日本海側に位置するため，深い積雪や冬の強い季節風などの関係で，太平洋側には見られない群落が形成されているなど興味深い地域である．本書はそれぞれの異なる環境に適応してどのような群落が形成されているか，またその群落を代表する植物がどのような生活をしているかを，一般の人に解りやすく解説したものである．山地の植物と環境との関係とは別に，著者が力を入れているのは，平野部の植物である．剣山や立山から流れる黒部川や常願寺川は，下流に広い扇状地を作り，その上に人の生活が営まれている．家のまわりにつくられる屋敷林による植物の利用と温存，伏流水が湧き出ることによる低湿地の水草や，そこに適応した沢スギなどが述べられている．スギに関しては山地の立山スギも詳しく述べられているのだから，片貝川の洞スギのような日本海側特有な形を持つものも載せる必要があるだろう．植物を基礎とした博物学の傾向の強い本である．学問的な解釈も必要だけれども，博物学的な面をもっと強めれば，さらに豊かな内容のものとなるであろう．地方の植物誌のひとつの行き方を示すものとして関心がもたれる．入手先は次のとおりである．シー・エー・ピー・タウン情報富山．富山市大手町6番14号　市民プラザ3 F.

（山崎　敬）

□Editorial Committee of the Flora of Taiwan: **Flora of Taiwan, 2nd ed. Vol. 3** 1084 pp. 1993. Department of Botany, National Taiwan University.

台湾大学の黄　増泉氏を長として，初版とは全く異なる編集委員のもとに，台湾植物誌の改定が行われている．委員の中には東北大学の大橋広好氏も加わっている．その第3巻が出版された．マンサク科からセリ科まで，その範囲は初版と同じである．執筆者は初版と同じ人もいるけれど，かなり新しい人に変わり，内容は初版とはかなり異なっている．日本にも分布する植物が多数あり，日本の植物の研究には重要な参考文献である．日本と関係のある種類で，日本での扱いと異なるものがある．総てに当たる訳にはいかないが一部を挙げておく，将来検討していただきたい．